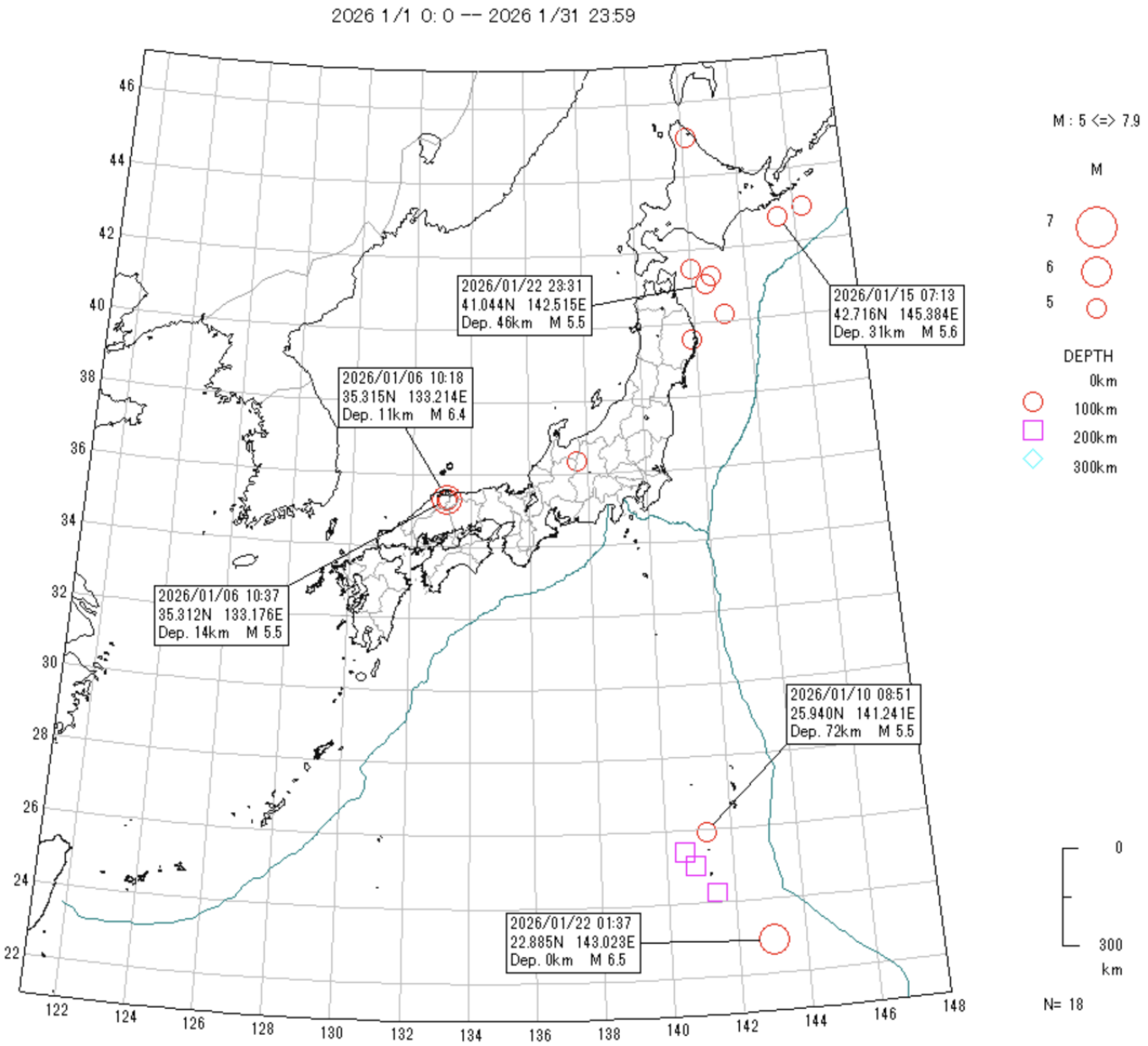
DuMA ニュースレター *2026年2月16日*

2026 年1月の地震活動概観

1月は日本列島およびその周辺でマグニチュード5以上の地震は18個発生しました。その中で最大の地震は1月22日に小笠原南方海域で発生したマグニチュード6．5の地震でした。ただしこの地震は陸域から遠く離れていたため、有感地震とはなりませんでした。その次に大きかった地震が1月６日に島根県東部で発生したマグニチュード6．4の地震で、震度5強を観測しました。幸い強い雪の予報は1月８日からという事で、雪と地震との複合災害になる事は避けられました。次の図は2026年1月に発生したマグニチュード5以上の地震を図示しています。図ではマグニチュード5．5以上の地震についてキャプションをつけてあります。



DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、**DuMA**は一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。　**DuMA**ニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。　ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。(個人会員）　―　記事の無断転用は禁止します。―　本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。

2011 年 3 月 12 日に発生した長野県北部地震（栄村地震）について

今年は東日本大震災（2011 年 3 月 11 日）から15年という節目の年となります。実は大震災の翌日に長野県北部地震（M6.7，最大震度6強）が発生しています。この地震は「忘れられた震災」と後年呼ばれるようになりました。なお震源地の長野県栄村では「栄村大震災」と呼ぶようになりました。

この地震は前日の東北沖の M9 地震による広域応力変化の影響で発生したと考えられています。つまり東日本大震災（地震名としては東北地方太平洋沖地震）に誘発された地震でした。

人的被害は3名、負傷者は約 60 名と報告されています。死者数は大きくありませんでしたが、人口規模（約 2000 人）を考えると相対的な影響は非常に大きいものであったと思います。建物被害は全壊：33 棟、半壊：約 160 棟以上、一部損壊：多数となりました。ちなみに全世帯の 97％で何らかの被害が出た事が後の調査で判明しています。伝統的な木造住宅が多く、積雪地域特有の重い屋根構造が倒壊リスクを高めました。そしてこの年は積雪が比較的多く、被害の実態が春の雪解けまでわからない状況が続きました。

復旧の困難さ

栄村地震の復旧は、単なる地震被害を超える困難がありました。まずは豪雪地帯であった事が、重機が入れない、倒壊家屋の除去が困難、屋根の雪＋地震損傷で二次被害の発生、物資輸送が困難という状況となり、まさに地震＋豪雪という**複合災害**でした。

そして発生が東日本大震災の翌日であった事から、国全体の対応が東北地方に集中してしまい、報道も当然の事ながら東北が中心でした。さらに支援物資・人員の確保も困難で、心理的に「見えにくい災害」となってしまったのです。そのため、「忘れられた被災地」とも言われたのです。

道路や橋は 175 カ所で損壊、田畑や農道、水路などの被害は 1000 カ所以上。住宅を除く被害総額は 55 億円で、村の予算規模 20 億円の倍以上となったのです。

今期の積雪の多さは、報道でも伝えられていますが、過去には「38 豪雪」「56 豪雪」「63 豪雪」などが昭和に発生しています。平成に入りますと、平成 18 年豪雪、平成 24 年豪雪などが知られています。

このような積雪期に内陸である程度の規模の地震が発生しますと、規模の割に大きな被害が出る事があります。今期ももう少しこの積雪が解消されるまで、心の中で「もし今地震が起きたら」という事を考えて頂ければと思います。

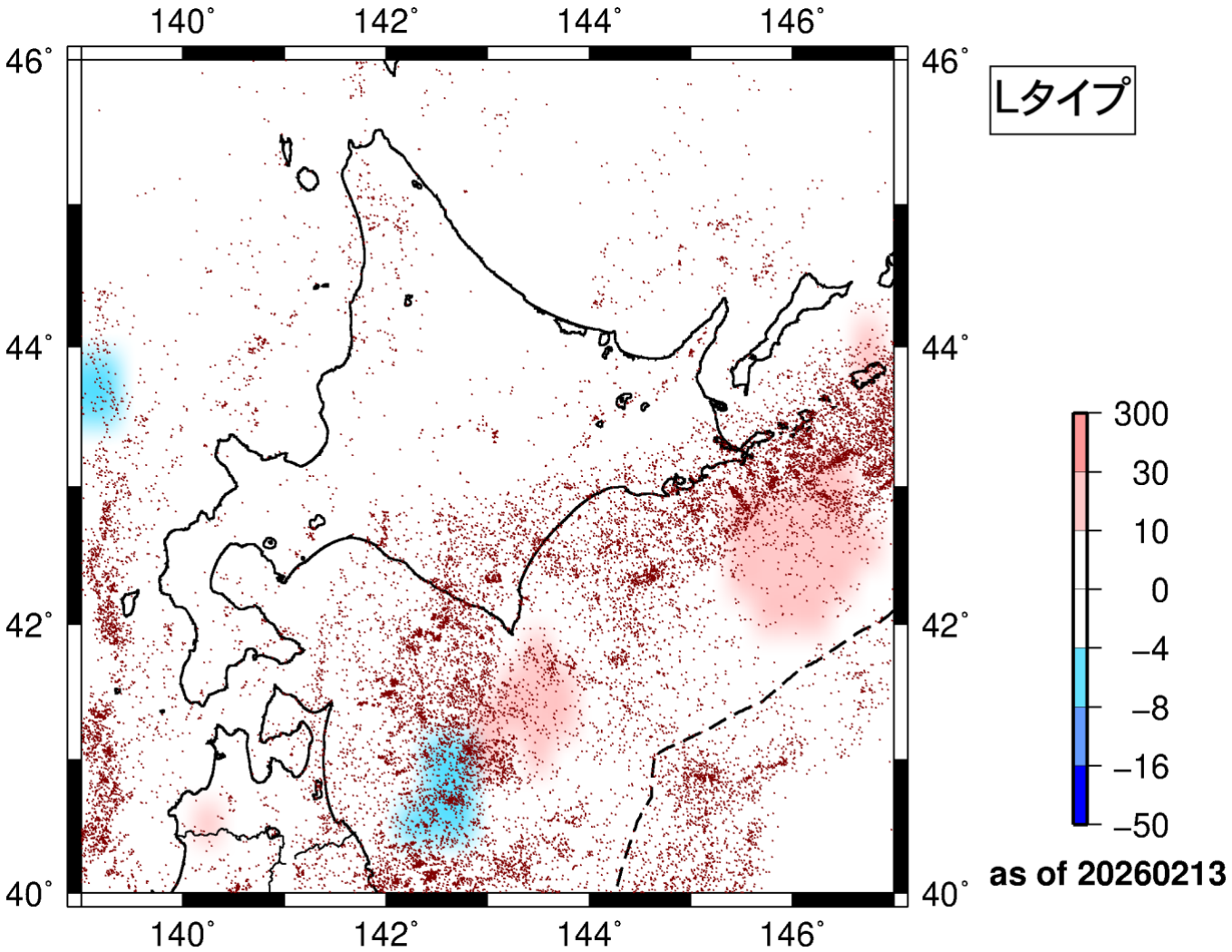
北海道および九州の地下天気図®

今週号では、1月12日のニュースレターに引き続き、北海道と九州および南西諸島を含む領域の2月13日時点の地下天気図をお示しします。いずれもＬタイプとなっています。

北海道の地下天気図では、前回の解析で青森沖に出現していた青い静穏化領域が消えていましたが、再び小さな静穏化領域が青森沖に出現しています。

さらに襟裳岬沖合や根室・釧路沖合で赤い地震活動活発化領域が前回の解析より少し大きくなっていることが確認できました。

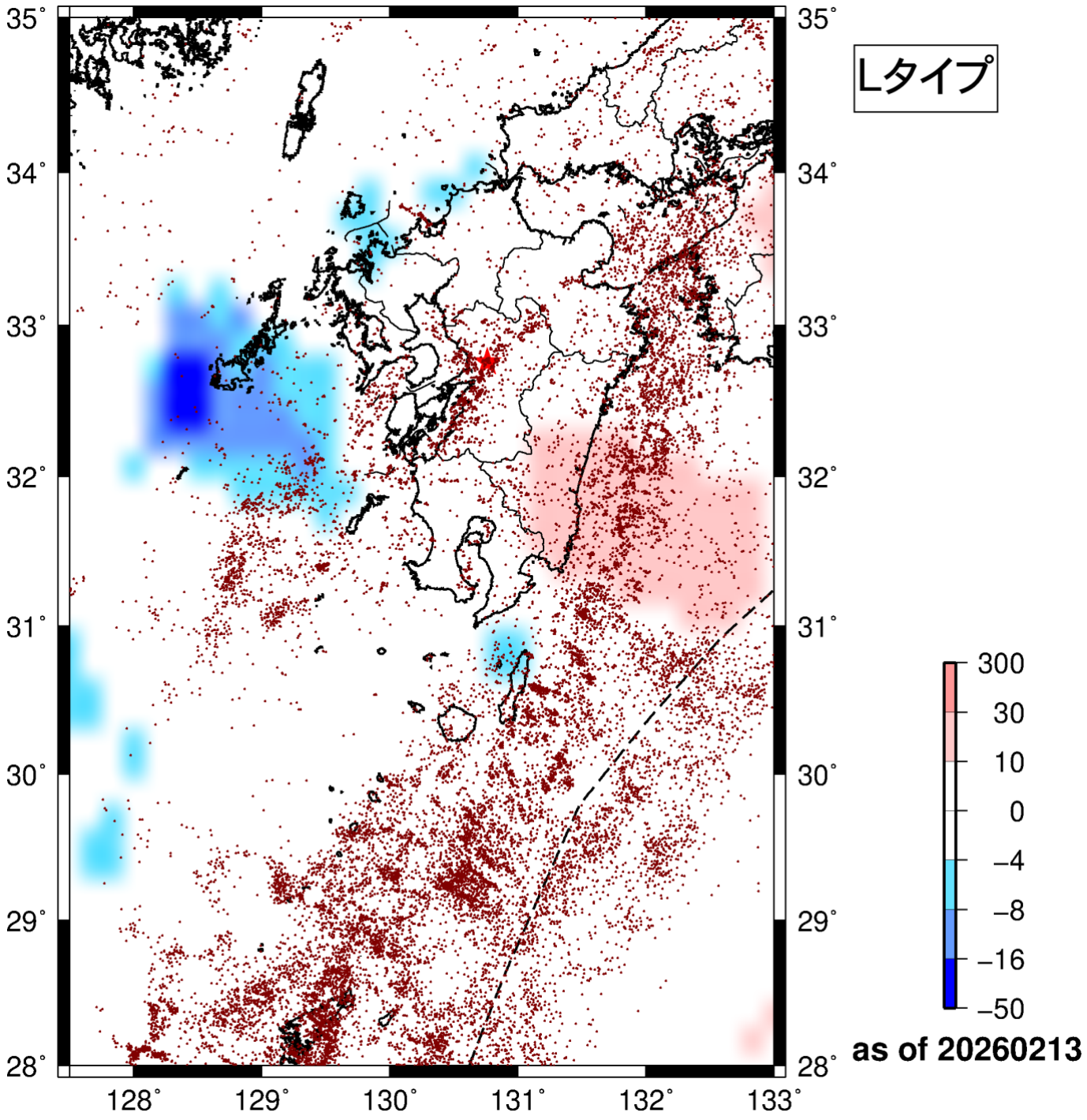
DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。　DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。　ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員）　―　記事の無断転用は禁止します。―　本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。



次に九州および南西諸島の地下天気図をお示しします。こちらは福岡県・佐賀県周辺での地震活動静穏化領域は少し解消に向かっていますが、長崎県およびその周辺地域での地震活動静穏化がさらに目立つようになりました。ただ、当該地域は元々地震活動がそれほど活発な地域ではないため、静穏化の確度はそれほど高くないとも考えています。

日向灘を中心とする地域での地震活動活発化は依然として続いている事がわかりました。

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。　DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。　ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員）　―　記事の無断転用は禁止します。　―　本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。



DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、**DuMA**は一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。　**DuMA**ニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。　ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。(個人会員) ― 記事の無断転用は禁止します。 ― 本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。